

# Close up だて



## — 力強く太鼓を響かせ 地域の皆さんを元気づけたい —

### 聖龍一門伊達武者太鼓

**和** 太鼓の魅力を「魂」の演奏で観客の心に訴える『聖龍一門伊達武者太鼓』をご存知でしょうか？

市民の皆さんなら、一度は新聞報道やイベントなどでその活動を目にしたことがあるはず…

この会を率いるのは、大楽宣夫代表。会員ほぼ全員が知的障がいハンディを克服、健常者と同じように仕事をし、忙しい合間を縫って厳しい練習を行い、近隣の老人施設などへの慰問活動を精力的に続けている団体です。

5年前まで障害者福祉施設「太陽の園」に勤務していた大楽代表障がい者が地域に貢献できるような活動がしたいと一念発起、大人数での活動も可能な「和太鼓」に注目し、坂井猛志総帥が率いる『聖龍太鼓』の門を叩いたのが始まり。

大楽代表が坂井総帥の教えを受け、昭和57年4月に会が発足して以来、現在までにオリジナルを含む5曲を披露できるまでに成長してきました。

また、技術向上を目指す一方で、かたくなに代表がこだわり続けていること。

それは「会員がただ太鼓を叩くのではなく、自分に誇りを持ち、礼儀やあいさつといった日常生活での規律を求めます」と大楽代表は話します。

『聖龍一門伊達武者太鼓』の活動が地域に受け入れられることで、さらに会員みんなが刺激を受け、また、勇気をもらえる。

今年30年目の節目の年。これまで以上に、気合いのこもった音色が地域へと響きます。

### 聖龍一門伊達武者太鼓

代表 大楽宣夫さん  
活動 毎週金曜日  
活動場所 伊達小体育館など

## だて

発行・編集 伊達市企画財政部企画課  
☎ 0142-23-3331 内線238・239  
FAX 0142-23-4414  
✉ kouhou@city.date.hokkaido.jp  
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

## 楽 画 記

■「ロタウィルス」に次女が感染!昼夜問わず30分おきに猛烈な吐き気と下痢の症状。そして隔離していたはずの長女にも魔の手が…1日2回の点滴を2日間計4回の重症でまさに『地獄絵図』。動揺する僕を尻目に冷静沈着な対応に終始する妻(母)は凄い。きつとウィルス並み?(し)

■幼少時はよく風邪をひくなど体調を崩していた私。それが成長と共に徐々に少なくなり、最近では病院に行くことなど1年に1度の検診のみ。そんな中健康診断で病院へ。余裕を持っていた私に、先生から予想もしない一言が!それから自分の体と向き合う日々が続いています。(よ)

■「言葉はナイフだ」と、最近観た映画の主人公が言っていました。何気ない一言で傷つけたりつけられたり。心当たりがありすぎて、主人公のその言葉にグサッとやられました。3月号の楽画記でいじられてから気をつけてはいるのですが、つつい本音が…反省の日々です。(や)